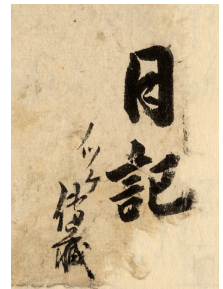


「加賀家文書」の調査研究から～その28

史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録からV～



子モロ（根室）でアイヌに接種し、クナシリ（国後）に渡り、二百十日の大嵐にあいながらもノツケ（野付）に辿り着いた桑田立斉は、ヘツカイ（別海）～子モロ～箱館～江戸へと帰着しました。

立斉が江戸へ帰着した後、門弟の井上元長（いのうえびんちょう）は、安政四年（一八五七）十一月、勇払で越年し、翌五年（一八五八）の春から勇払・紗硫・新冠・静内・三石・浦河・幌別・様似一帯で種痘をし、根室に向いました。

1. 『日記ノツケ伝蔵』から

「五月朔日 松浦様ノツケ帰着」「二日 逗留 船乗換え支度」「三日 松浦様出船トウの内エコエトエ引越」～これは、安政五年（一八五八）松浦武四郎が厚岸を通り、太平洋沿岸をノサップ岬を廻って子モロに到着し、アイヌ陣平の所有していた「板綴舟」にて、トウブト（遠太）の番家に一宿し、翌日ヘツカイに辿り着き、伝蔵の出迎えを受けて、ノツケに着き、翌日は逗留し、小型の「漁船」に乗換えて（船で知床岬を廻って、斜里の方へ行くので、暫く使っていなかった板綴舟では難儀をするので）野付湾内を通り、茶志骨川を遡り、コエトエで上陸して荷物等を船から降ろし、「コロ」を敷きその上に船を載せて引き、半島を越し、外海へ出て、シベツ（標津）で宿泊した時の日記です。当時の人々がどのように通行したかがわかります。

「同 九日 近藤様井上元長様当着」近藤様は子モロ詰下役出役として、種痘の為に来られた井上元長を案内して来ました。この後、再び子モロへは「八月二日に種痘御用として罷り出」となっています。

他の記録等によると、「四月十七日 井上元長は松浦武四郎とクスリ（釧路）で会っている」こと等から考えると、釧路からの道々で種痘を済ませ、根室に渡り、ノツケからクナシリ・エトロフへ渡ったようです。

2. クナシリ・エトロフ島での種痘

「六月二日 択捉島のフウレヘツ（振別）で、蝦夷地を巡回していた箱館奉行村垣に『種痘医師井上元長、昨日当着に付、面会す』となっています。そして、翌日は『井上元長、種痘いたし候二付、透見す。』『村垣日記』と記され、択捉島の振別へ六月朔日に到着し、同 三日から種痘を始めたようです。

3. 子モロ地方での種痘

「八月二日 名取様同道二而シヘツ江種痘御用として罷出」と、『日記ノツケ伝蔵』に記されています。これが、井上元長様の子モロでの種痘の始まりです。しかも、択捉島・国後島での種痘を終えてことで、名取様は子モロ詰同心、伝蔵も御付添になったことがわかります。

「同 三日 チャシコツ土人種痘相済」「同 四日 シヘツ土人種痘相済」

「同 五日 イチャニ 同 断」「同 同 チウルエ 同 断」

「同 六日 クン子ヘツ同 断」「同 七日 サキムイ 同 断」

「同 七日 朝迄ウエンヘツ 同 断」八日 「ウエンヘツより小船村継二而シヘツ迄帰着」

茶志骨・標津・伊茶仁・忠類・薫別・崎無意・植別の各村落で種痘をし、なかでも、植別では朝方ま

でも続け、村ごとに小舟で継ぎ送りをし、標津に戻っています。

この後、十一月にも同じ村落で種痘をおこなっています。各村落のアイヌの全員には接種出来なかったようです。『日記ノツケ伝蔵』の中に「井上元長様江種痘土人名前書」として、種痘を受けたアイヌ全員の名簿はありますが、この、八月三日から同七日までの接種人数を分けることは出来ません。

4. 再び子モロ地方で種痘

八月八日、標津へ戻った井上元長が何処へ種痘に出掛けたのか、その行方を知る資料は手元にはありませんが、『日記ノツケ伝蔵』によると、シヤリやアバシリ方面での種痘に尽力していたのではないのでしょうか。

- 「十一月十八日 二井上様シヤリよりシヘツ下山之由」 「私呼出し之手紙番家より参候」
「同 二十四日 シヘツ着 種痘之儀者子モロより御差函至来迄御控ひ被下度様願上御聞濟尤種痘瘡土人之儀は四日隔四人五人位宛シヘツチャシコツより差出し積り二候」
「十二月朔日 ヘツカイ漁勘定」
「同 三日 シヘツ漁勘定」
「同 四日 チャシコツ漁勘定 井上様同道 植痘瘡帰り之節為致候積」
「同 五日 イチャニ勘定 井上様」
「同 六日 チウルエ、七日 クン子ヘツ、八日 サキムイ、九日 ウエンヘツ漁勘定」
「同 十日 井上様ウエンヘツ着早速種痘聞濟居会中植支舞」
「同 十二日 サキムイ用済 クン子ヘツ種痘用済御一宿」
「同 十三日 チウルエ種痘相済御一宿」
「同 十四日 イチャニ 同 断」
「同 十五日 シヘツ帰着」
「同 十六日 土人不揃ひ候二付二十三日迄御控ひ之御逗留願ひ早速御聞濟」
「同二十一日 井上様御頼ノツケ罷出 はなこさん種痘いたし候」
「同二十三日 シヘツ土人居合有丈種痘相済候」
「同二十五日 チャシコツ土人種痘居合有丈相済候」
「同二十七日 ヘツカイ土人仁助始としていさぎよく種痘相済候」
「同二十八日 ホロモシリ着」(文責 調査員 戸田峯雄)

野付半島の自然と歴史を1日満喫しよう!

6月22日(日) 同日開催 ふるさと講座のお知らせ!

自然系・四季の野鳥観察会

「アカアシギ・タンチョウを見よう」

- 時間 午前9時30分～12時
- 持ち物 双眼鏡・図鑑(郷土資料館で貸し出しもします。)

歴史系・別海ミステリーツアー第1弾

「古代竪穴住居跡と幻の町キラクに行こう」

- 時間 午後1時～4時
- 持ち物 ①長靴持参 ②約8キロ程あるきます。

※自然系・歴史系ともに集合場所は、野付半島ネイチャーセンターです。

※歴史系は、5月11日(日)開催予定でしたが都合により延期したものです。

別海町郷土資料館だより No.107

発行日 平成20年6月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

なかなか気温が上がらず肌寒い日が続きます。6月は運動会シーズンです。せめて例年並になってほしいところですが。今月22日同日開催で野付半島をまわります。この頃には花々が咲き、初夏の様相が感じられることを祈るばかりです。(石渡)